

## 「全鍍連」 2017年9月号 いきいき地域

新潟県鍍金工業組合 井筒 昇（新潟メタリコン工業(株) 代表取締役）

### 「みなとまち新潟」

新潟県鍍金工業組合の井筒と申します。私の暮らす新潟市は酒どころ・米どころとして有名ですが、歴史ある港町でもあります。良い機会と思い、新潟のことを少しでも知っていただき、興味を持っていただければと思います。

「みなとまち新潟」のシンボルである新潟港は2019年に開港150周年を迎えます。江戸時代から大阪と北海道を結ぶ北前船の往来する拠点の港として発展し、1869年（明治元年）に函館、長崎、横浜、神戸とともに開港5港の一つとして開かれた歴史のある国際貿易港です。

この開港の際には、諸外国からの「日本海側にも1港ほしい」という要求に幕府側が応え、新潟港を開港場の一つとして選定しましたが、信濃川河口に位置する新潟港は水深が浅く、大型船の入港等に支障が生じる場合もあるということから、諸外国の調査団は難色を示しました。諸外国は石川県の七尾港を希望していましたが、新潟は幕府の直轄地であること、新潟の男は穏健で争いを好まない地域性、時の孝明天皇は外国船入港反対の意を示していたことから京都に近くなく、寺院が多く仏教徒が多いためキリスト教が広まる不安が少ないという理由で幕府は新潟港の開港を決めました。

明治期になると新潟は開港場にふさわしい文明開化の気運が高まり、北国一の要地として外国からも商人が集まる土地となりました。異国文化の象徴となったのが新潟運上所（旧新潟税関）です。現在も新潟市歴史博物館の敷地内で往時の姿を伝えています。洋風建築で、アーチ型の通路や石畳、事務室の中央には石油ランプを組み合わせたシャンデリアと当時はかなり近代的な建物だったことと思います。その後、外国との交易の窓口にあふさわしい町にするべく開化政策が実施され、港湾施設・街路や張り巡らされていた堀の整備、公園、学校や病院、銀行等の建設が行われました。新潟県政記念館や白山公園はその当時の面影を今に残しています。それからしばらくして産業が発展し、従来からの漁業や農業もあって、新潟県は日本一の人口を誇ったといわれています。

みなとまち新潟は他にも多くの見所があります。京都祇園、東京新橋と並ぶ日本三大芸妓の新潟古町芸妓や江戸時代から船乗りの信仰を集めた湊稻荷、重要文化財の万代橋。

大きく目立った観光地ではありませんが、ぜひ次のお休みの機会には新潟で歴史を感じ、お酒を飲んで、温泉で日ごろの疲れを癒していただきたいと思います。